

3-1 [成績観・学力観]

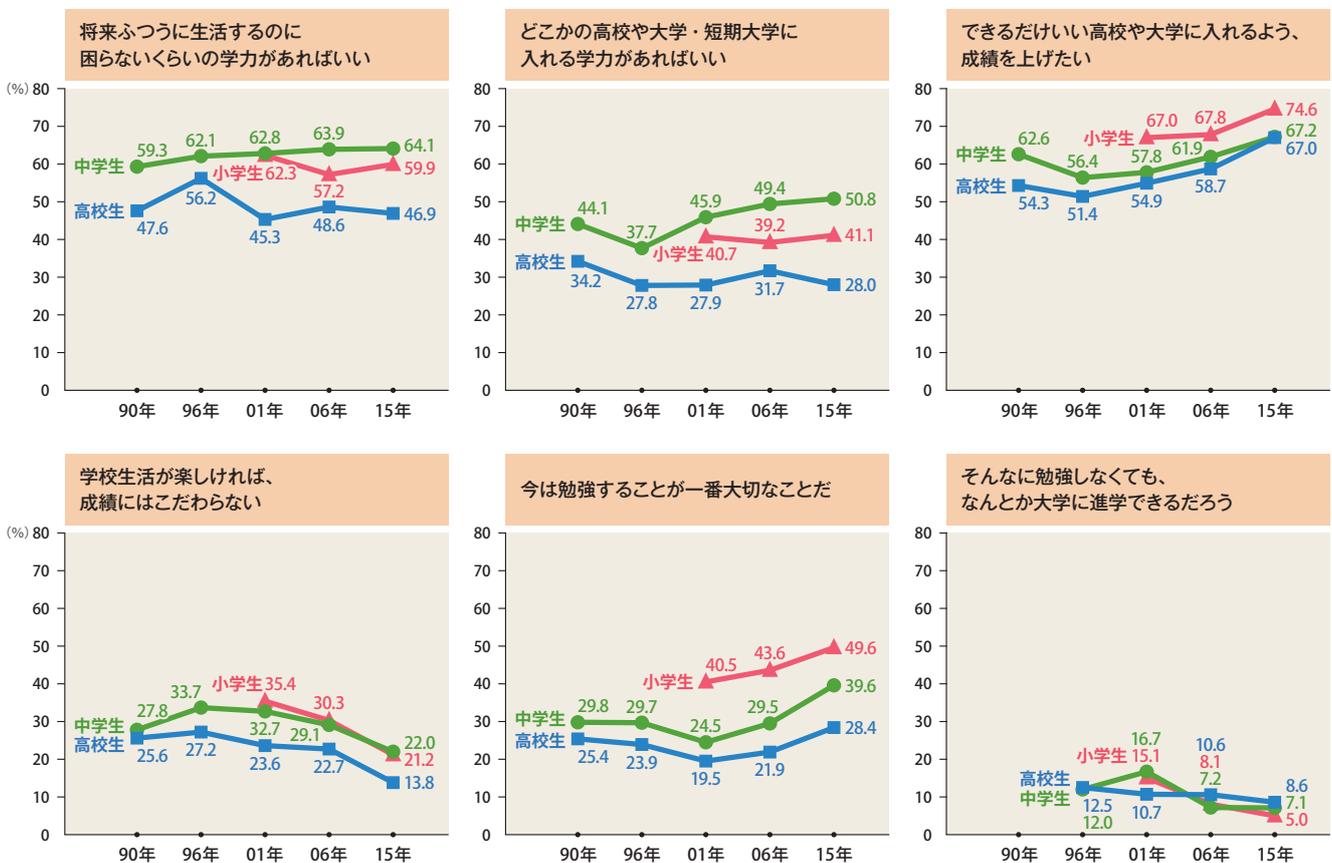
「できるだけいい高校や大学に入れるよう成績を上げたい」が上昇

小・中・高校生とも「今は勉強することが一番大切なことだ」が2001年以降増加している。成績についても、「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」が、2006年比で小・中・高校生とも5ポイント以上上昇しており、7割前後が進学のために成績を上げたいと考えている。また、「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」はいずれの学校段階でも前回比で5ポイント以上減少した。小・中・高校生とも勉強は大切で、成績を上げたいという意識が高まっている。

Q あなたは、次のように思うことがありますか。

図3-1 成績観・学力観（小学生・中学生・高校生）

※複数回答



注1) 小学生はすべての項目について90年・96年はたずねていない。

注2) 「そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう」は90年に該当項目なし。

注3) 「どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい」は、高校生は「どこかの大学・短期大学」としてたずねている。

注4) 「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」は、高校生は「できるだけいい大学」としてたずねている。

注5) 「そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう」は、96年・01年は「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」としてたずねている。

3-2 [学習の悩み]

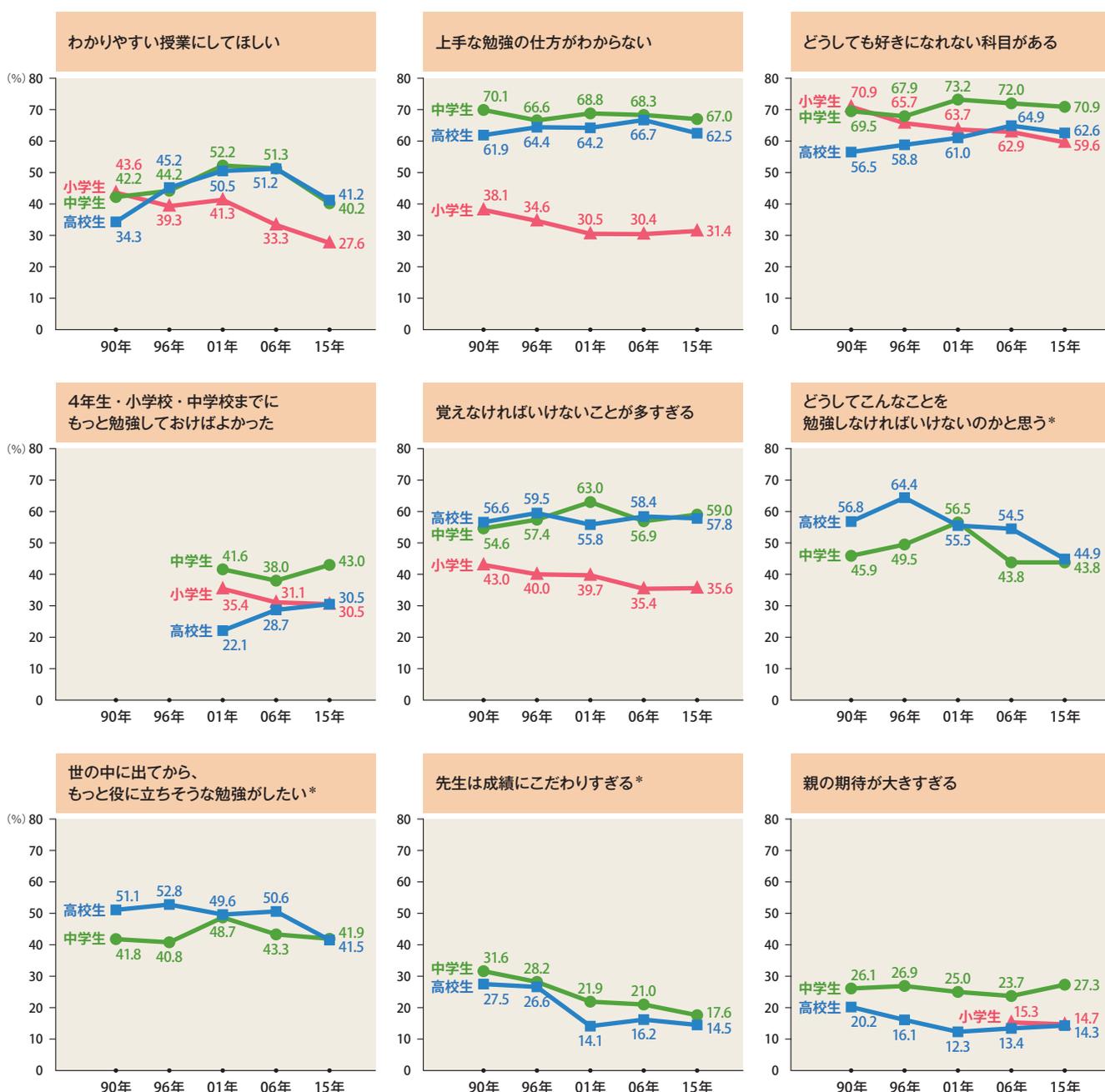
「わかりやすい授業にしてほしい」と感じる割合が減少

学習の悩みをたずねた項目のうち、「わかりやすい授業にしてほしい」は、中学生が11.1ポイント減、高校生が10.0ポイント減でいずれも選択率は4割に、小学生は5.7ポイント減で3割弱となった。これは、今回多くの教科で理解度が上昇していることと同様の傾向である(P.5参照)。また、高校生については「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」や「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」が10ポイント弱減少している。

Q あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

図3-2 学習の悩み(小学生・中学生・高校生)

※複数回答



注1) *の項目は中学生・高校生のみにたずねている。また、各項目についてグラフのない年は該当項目をたずねていない。

注2) 「4年生・小学校・中学校までにもっと勉強しておけばよかった」は、小学生は「4年生までに」、中学生は「中学校までに」、高校生は「中学校までに」としてたずねている。

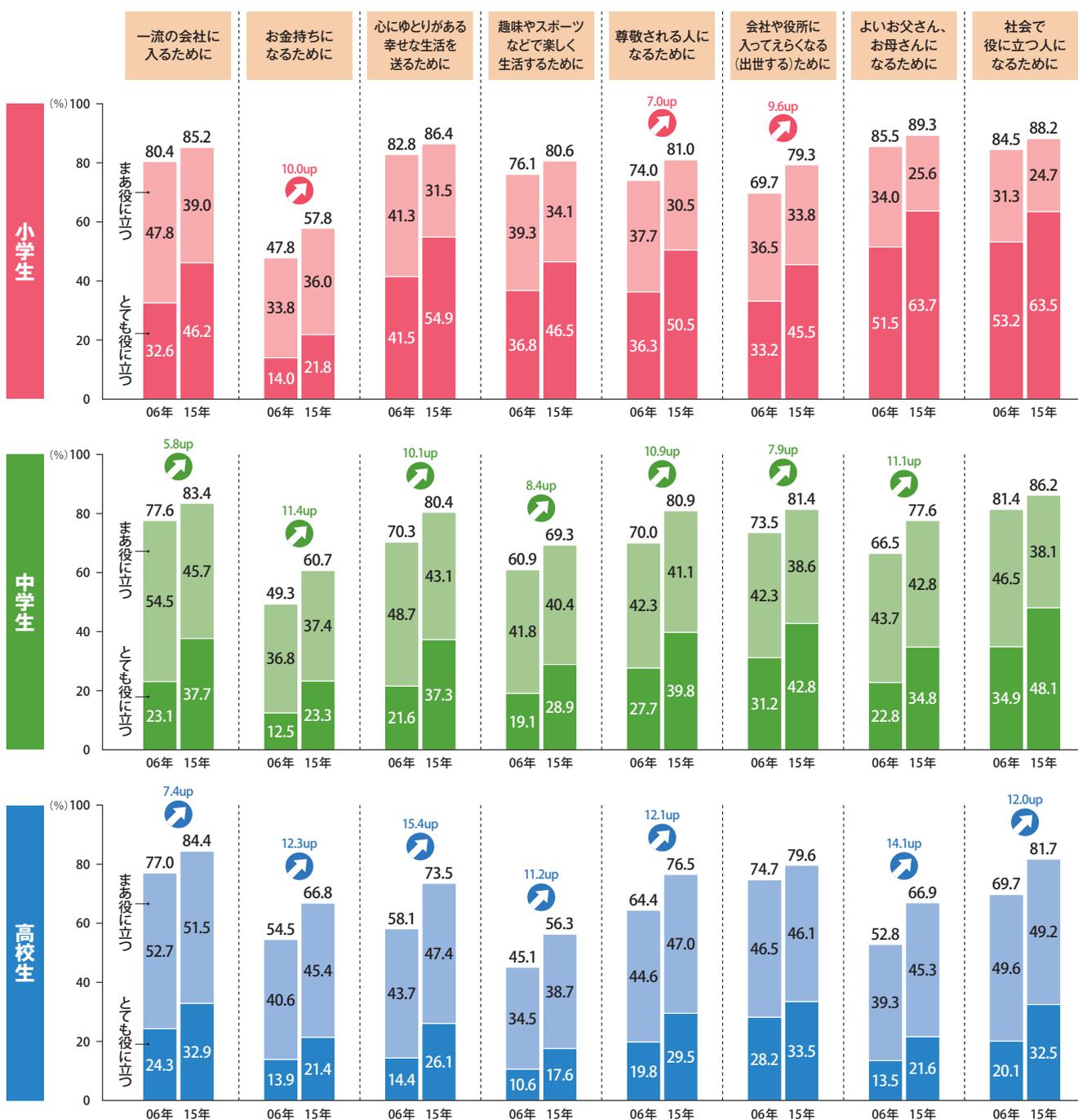
3-3 [勉強の効用]

学校の勉強が将来の生活や社会での成功に役に立つという考えが広がっている

学校の勉強が役に立つと思うかについてたずねたところ、小・中・高校生ともすべての項目において肯定的な回答が増加している。特に、「一流の会社に入るために」(小85.2%、中83.4%、高84.4%(「とても役に立つ」+「まあ役に立つ」の%、以下同))、「社会で役に立つ人になるために」(小88.2%、中86.2%、高81.7%)は、学校段階を問わず8割以上となっている。学校の勉強が将来の生活や社会における成功に役に立つという考えが広がっていることが読み取れる。

Q 学校の勉強は、次のことにどのくらい役立つと思いますか。

図3-3 勉強の効用(小学生・中学生・高校生)



注) ↑は前回(06年)比で5ポイント以上増加した項目。

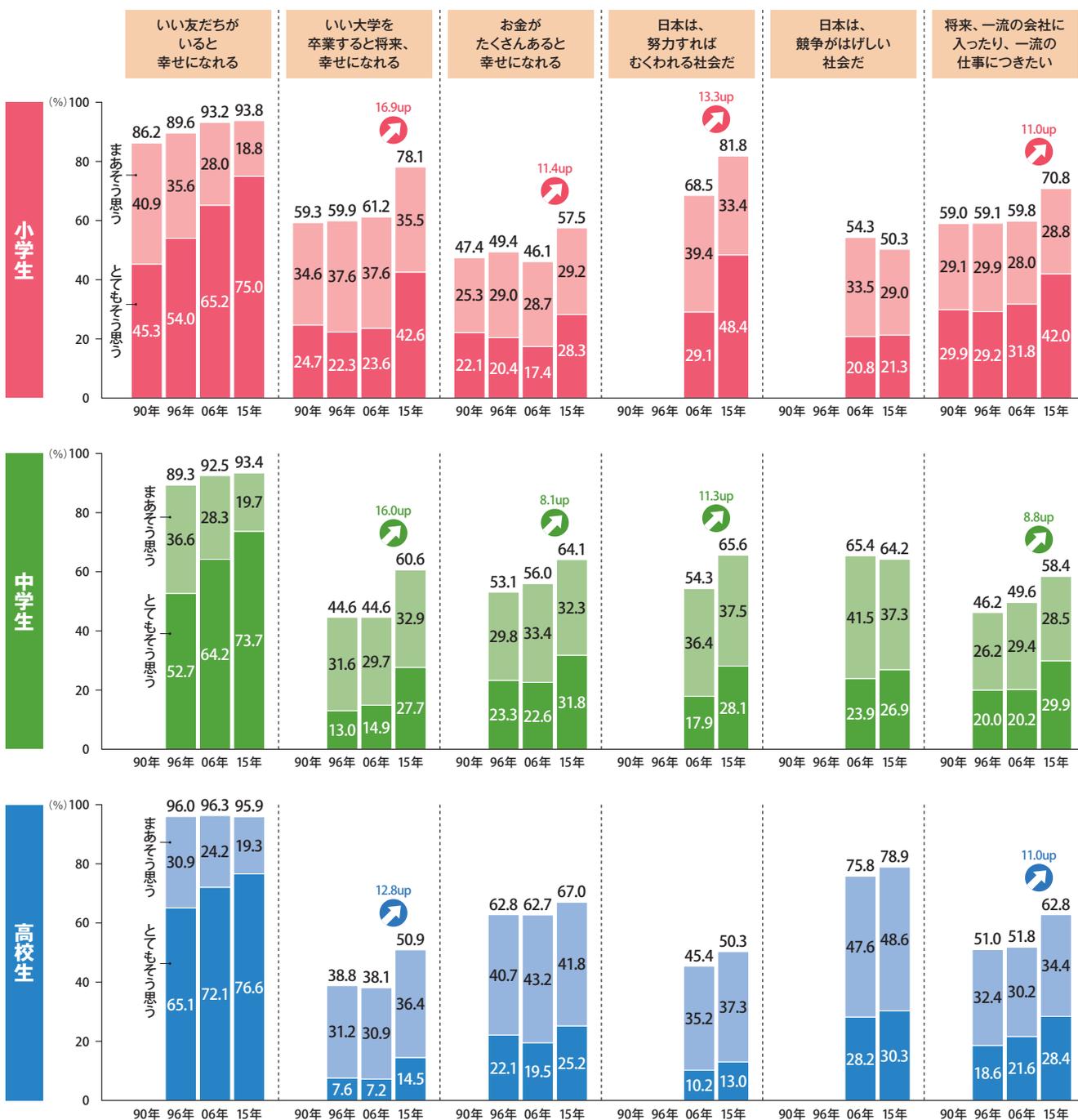
3-4 [社会観・将来観]

「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」と考える小・中・高校生が増加

小・中・高校生とも「いい友だちがいると幸せになれる」と考える割合が9割を超えている（「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%、以下同）。また、「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」という考えが小・中・高校生とも前回2006年比で10ポイント以上増えている。「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」「お金がたくさんあると幸せになれる」「日本は、努力すればむくわれる社会だ」との考えも2015年調査で増加している。

Q あなたは、次の意見をどう思いますか。

図3-4 社会観・将来観（小学生・中学生・高校生）



注1) 赤、緑、青の矢印は前回(06年)比で5ポイント以上増加した項目。
 注2) 全てについて01年はたずねていない。また、各項目についてグラフのない年は該当項目をたずねていない。